

## 【特集2】9割が行動変容へ 乗務員の睡眠状況改善 待ち時間2分台になった事例も 運輸デジタルビジネス協がフォーラム

2024.12.10 【安全スタッフ 特集】



(一社)運輸デジタルビジネス協議会(略称:TDBC)は、事業会社とサポート企業の協働による課題解決の成果を公表する「TDBC Forum 2024」を開催した。乗務員の睡眠状況を改善する実証実験で、9割で行動変容が起こったという良好な結果が得られた事例や、安全支援ツールで乗務員が自らファインプレーを動画で共有している事例、荷物の積み降ろす場所の予備バースや荷役作業の改善などを徹底し、バース予約で荷主都合の待ち時間を2分台にできた事例などを紹介している。

### 3割超が睡眠をより確保

同協議会は、安全や教育など共通の課題を持つトラック、タクシー、バスなどの事業者が、さまざまなソリューション、技術を提供できる企業と協力・連携して課題解決に当たることを目的に設立。運輸事業者の大部分を占める中小零細企業、個人事業主をサポートできる体制づくりに努めている。その成果報告であるTDBC Forumは今年で7回目となる。一部採録をお届けする。

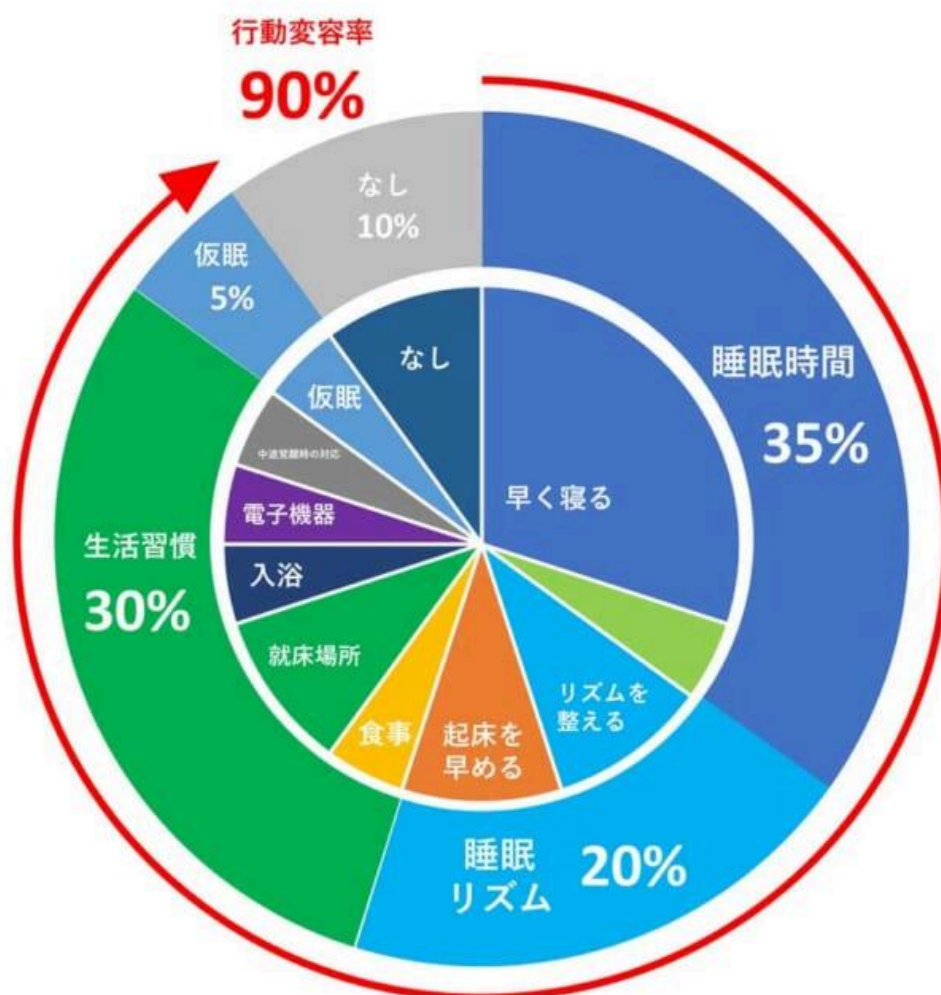
今回の事例発表では、健康経営の推進と健康課題解決WGにおいて、「健康経営と睡眠問題・乗務員の睡眠を守るには、どのような課題があるか?」というテーマで、実証実験の結果などが

報告された。

眠気解消サービス「Nemielu」を開発・運営する(株)ネミエルの協力の下、ドライバーの睡眠改善を目的とした眠気測定とカウンセリングを実施。実証実験に参加したのは、(株)SHINKOロジと茨城乳配(株)の2社で、各企業10人ずつが対象となった。1週間に1回5分程度の眠気チェックを行い、そのデータをもとに2週間に1回アドバイスを行うこととした。

考察によると、実施前後では労働生産性の損失を表すプレゼンティーイズムと運転中の眠気が減少したが、その他の項目に大きな変化は確認できなかったという。

一方、行動変容は目覚ましかった。参加者の約9割が行動変容を起こしたことが分かった(画像1)。ネミエルの松本光浩代表取締役CEOは、「非常に良い結果」と指摘。具体的な内容としては、「睡眠時間をより確保する」(35%)、「睡眠リズムを整える」(20%)、「生活習慣を整える」(30%)の3つが大きな割合を占めていた。



画像1 実証実験における行動変容率

行動変容をした結果感じた変化では、「覚醒時の眠気が減った」が35%、「目覚めが良くなった」が20%などとなり、合計65%が良い変化を表明している。このため、行動変容後もう少し長期で見ると、睡眠状態も変わるかもしれないとした。

## ヒヤリハットが44%減る

事故撲滅と実現のための管理者、乗務員教育WGの「運輸安全マネジメントに基づいた持続可能な行動変容モデルの構築」では、好事例を共有する仕組みの活用など課題解決の状況が発表された。

地元で大手コンビニエンスストアへの配送業務を行う(株)アルプスウェイと、自社のドライバーの安全支援ツールとして開発した安全運行管理ソリューション「SSCV-Safety」（以下、SSCV）を運用するロジスティード(株)が協働。23年10月からSSCVを長野センターで導入し、両社共同で事故撲滅に向けた取り組みを本格的に始動させた。SSCVは、体調・疲労状態を可視化し事故を「予測する」機能、運行を「見守る」機能、運転を「振り返る」機能の3つで構成し、各種データから乗務員を随時捕捉し、サポートする仕組み。

ロジスティードの伊藤年和担当部長は、導入後の気付きとして、「やらされ感」があったり、管理者側に改善に対するノウハウがないといった課題があったと述べた。軽微な事故をきっかけにして、安全関連マニュアルの整備やSSCVの理解度を深める管理者の行動変容が起こったという。

それにより、管理業務の平準化などを実現。定量データを素早く把握し、乗務員へのよりの確かな指導を実施できるようになった（画像2）。取り組みの成果としては、SSCVを導入以降、管理者の行動変容が職場全体の安全意識を底上げし、ヒヤリハット件数が7カ月間で44%も減少している（画像3）。

管理者が熱心に安全教育を推進 (10) 安全管理体制の構築・改善に必要な教育・訓練等 ) TDBC

■安全管理体制を適切に運営し、安全を保っていくためには、教育・指導を実施することが重要  
<施策>

①管理者はSSCVの特長をよく理解したうえで、徹底して機能を使い倒す環境を整備することで管理業務の平準化を実現  
②乗務員の目標設定やセンター内での自分の順位などを定量データに基づき見える化し、PDCAサイクルによる継続的な改善をサポート  
③見本となる行動が確認できたときには乗務員を褒めてモチベーションを向上

**環境整備**  
✓ 各種機能の明確化と運用の見える化  
イベント別通知条件と解説

**見える化**  
✓ SSCV Safetyを活用し、個人宿務員共有

**褒める**  
✓ 運用レポートを1ヶ月ごとに見え、成果の見える化

**行動変容**

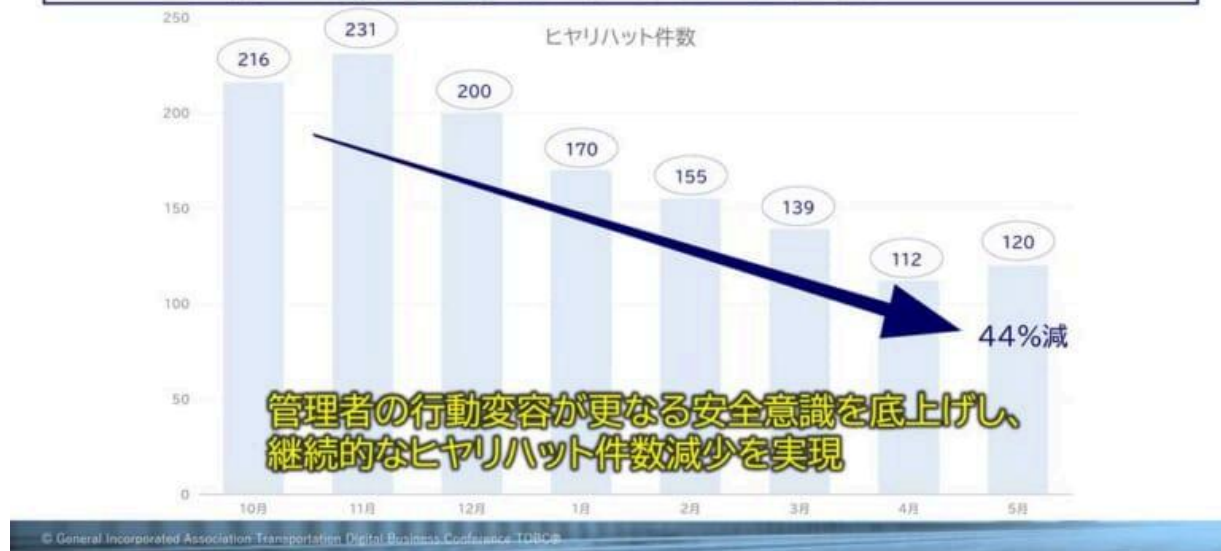
- ✓ 定量データを素早く把握し、乗務員へのよりの確かな指導を実施
- ✓ 管理者が積極的に乗務員とのコミュニケーションの機会を創出  
指導のポイントが管理者・乗務員とも明確となり、お互い納得した対話の実現
- ✓ 良い行いも見える化されたことで、乗務員から積極的に「褒めて」アピールができる

© General Incorporated Association Transportation Digital Business Center 2024

画像2 安全教育による行動変容

## 取り組み成果(月間ヒヤリハット件数の推移)

■2023年10月にSSCVを導入以降、管理者の行動変容が職場全体の安全意識を底上げ  
→ヒヤリハット件数は7か月間で44%減、一定の成果を出し更なる取り組み強化フェーズにつなげていく



画像3 月間ヒヤリハット件数の推移

行動変容の好事例では、IoTボタンによる乗務員自ら行う報告がある。運行中のドライバーが任意にドラレコ動画を切り出すことのできる機能で、ファインプレーをセンター全体で共有することができるようになった(画像4)。「信号無視の車両がいたにもかかわらず、集中して運転ができておりGood!!◎」(管理者コメント)という例があった。

## 取り組み成果(管理者から乗務員へ、行動変容の好事例)

■IoTボタンを活用して乗務員自ら好事例を報告(乗務員の良い運転を褒める使い方ができている)  
→乗務員の1つのファインプレーをセンター全体で共有する仕組みを構築、次なるファインプレーへ

安全確認行動のエビデンスとして  
乗務員評価につなげる機能

IoTボタンとは?  
SSCV機能のひとつで、運行中にドライバーが任意にドラレコ動画を切り出すことのできる機能  
(IoTボタンを押下すると30秒さかのぼった時点から記録)

【管理者コメント】  
信号無視の車両がいたにもかかわらず、集中して運転が出来ておりGood!!◎

1人の乗務員のファインプレーは次なるファインプレーの種!  
良い事例はセンタ全体で積極的に共有

✓ファインプレー動画を事務所のモニターにて随時共有

© General Incorporated Association Transportation Digital Business Conference TDBC

画像4 管理者から乗務員へ、行動変容の好事例

## 予約時間以前なら2分台に

人材、働き方改革、荷主とのパートナーシップによる2024年問題の対応WGでは、「バス予約のシステムは運送事業者を幸せにするか?」と題して、関係者間の協議で成功している事例が紹介された。

1つ目は、(株)パローホールディングスの取組み。

(株)フルバックの営業チームリーダーの久長正憲さんは、バース予約の仕組みにおける荷主都合の待ち時間のデータを挙げ、「予約時間以前に受け付けていた場合」の荷主都合の待ち時間は、2分台という驚くべき数字が出ていると強調した（画像5）。「予約をしたが遅れた場合」であっても平均9分、「そもそも予約しなかった場合」でも平均28分となっており、「一般的な数字よりもかなり短い待ち時間になっている」とした。

事例① 株式会社パローホールディングス様の事例

TDBC



画像5 バース予約における荷主都合の荷待ち時間の3パターン

実現の背景（画像6）には、同社が物流に対する重要性の認識から積極的な改善意志と行動につながっていることにある。物流事業者との定例での改善協議の実施や、荷受量に対するバースの受け入れ可能量の改善、予備バース、荷役作業時間の見直しなどの継続的な改善といったキャパシティマネジメントなどに地道に取り組んでいる点が挙げられるという。

- 物流に対する重要性の認識 → 積極的な改善意志と行動
- 物流事業者との定例での改善協議の実施（現在は2ヶ月に1回程度）
- キャパシティマネジメント
  - ・ 荷受け量に対するバースの受入れ可能量の改善
  - ・ 予備バース、荷役作業時間の見直しなどの継続的な改善
- ドライバーとの連携による現場対応
  - ・ 予約優先が前提だが、予約車両遅延時は後続の影響を減らすために順序変更 など、現場での柔軟な対応（物流事業者側の効率化を考慮）

バース予約システムを「キャパシティ & 交通整理のツール」として位置づけて、  
**「バース予約のシステム」(仕組み、運用)が機能している好例**

画像6 バース予約の好循環が実現できた背景

2つ目は菱木運送(株)の取組み。同社の菱木博一代表取締役社長は、荷卸しの待機について荷主にリアルタイムで改善を要求したところ、最初は不可能と言われたが、結果的には早朝の待機に対しては夜勤で荷卸しを実施し、改善に成功したと述べた（画像7）。荷積みでも、同様に要求し、改善が進んだとした。ただ、改善を継続するためには、フォローが重要になると注意を促した。

事例② 菱木運送株式会社様の事例

運送会社を継続  
 するためには？

➔

利益を減らさずに  
 労働時間の削減！

➔

待機の解消

待機の改善要求に対する荷主企業の反応と対応

改善例	待機種別	荷主への対応	荷主の反応	荷主の対応	その他
1	荷卸し待機	・リアルタイムで改善を要求 ・待機の実績を提示	他の運送会社を探す	・早朝の待機に対しては夜勤で荷卸しを実施し、改善に成功	最初は、改善は不可能と強気な姿勢
2	荷積み待機	・リアルタイムで改善を要求 ・拘束時間超過回避の為、積込み時間のリミットを提示	改善を検討	・積込み時間のリミットを決め、積み残しは翌日出荷へ ・キャンセルに対する補償	他の運送会社も賛同

待機の改善要求に対するポイント

指摘をされない待機実績の集計

+

荷主へ具体的な改善内容の提示

=

改善

画像7 待機の改善要求に対する荷主の反応と対応

フォーラムではこのほか、遠隔操作・自動化で実現する安全・安心な作業現場と迅速な災害対応など、多様なワーキンググループや事例セッションなどが行われた。人材の確保や、物流革新に向けた法改正などにより難しいかじ取りが迫られるなか、TDBCが推し進める先進的な取り組みへの期待が高まっている。

関連キーワード：

[タクシー](#) [ドライバー](#) [トラック](#) [バス](#) [健康経営](#) [働き方改革](#) [安全スタッフ特集](#) [睡眠](#) [運輸業](#)

安全スタッフ

2024年12月15日第2464号 掲載

労働新聞社Webサイトに掲載の記事、写真、図画、動画、音声等の著作物・コンテンツの著作権は、当社または執筆者等正当な権利を有する第三者に帰属しています。また、これらの無断複製・転載を禁じます。

Copyright © 1999 - 労働新聞社 All rights reserved.